

石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY れきはく

No.122
2017.7.14

トピックス Topics

海を渡って加賀・能登にもたらされたアイヌ文化 ～第27回石川の歴史遺産セミナー「北前船と蝦夷地」～

当館では、外部の研究者をお招きして石川の歴史遺産を掘り起こす研究セミナーを年に2～3回開催しています。第27回セミナーでは、春季特別展「北前船と日本海海運」に関連して、石川県が誇る歴史遺産の一つである北前船と北方地域との交流について理解を深めました。今年4月に石川県加賀市ほか全国10市町の北前船寄港地・船主集落が日本遺産に認定されたこともあり、講演会後のシンポジウムまで多くの人が熱心に参加されました。

講演会では谷本晃久氏、今石みぎわ氏、菅原慶郎氏のお話があり、江戸時代の北海道では本州の諸藩とは全く違う統治がなされていたこと、北前船の交易により北方でとれたニシンやコンブといった海産物やアイヌ文化が各地に広がっ

ていたことなどがよくわかりました。今回の春季特別展で加賀・能登の神社で近年発見された「イナウ」というアイヌの祭祀具を掲げた額が展示されましたが、こうしたアイヌ文化が伝わった背景には北前船の船乗りたちの活動がありました。

「北前船」の語のきちんとした定義はむずかしいようですが、18～19世紀に北陸の船乗りたちがハイリスク・ハイリターン（高リスク・高リターン）の商売を北で展開したことは、加賀・能登の人々のくらしや文化に大きな影響を与えました。加賀・能登と北方地域との交流については、今後の調査・研究で新たな事実が浮かびあがる可能性を秘めているように感じました。



広徳丸イナウ奉納額
明治23年(1890)

次回展覧会のお知らせ Upcoming Exhibition

秋季特別展「禅の心とかたち—總持寺の至宝—」
9月16日(土)～11月5日(日) ※会期中無休

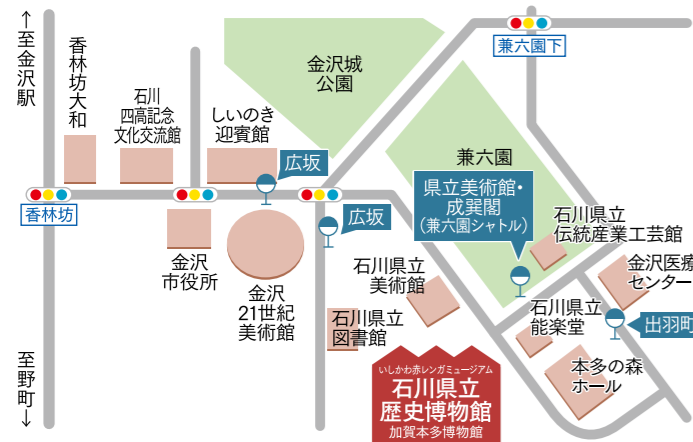
現在の輪島市門前（もろおき）にある總持寺（そうじし）祖院（そいん）は、かつて永平寺に並ぶ大本山總持寺として、全国に1万6千もの末寺を持つ大寺院でした。明治31年(1898)に火災のため伽藍のほとんどを焼失し横浜市鶴見に拠点を移しましたが、地元の人々の努力により、その跡地は祖院として復興し今に至ります。

そもそも總持寺は、加賀（かが）・大乗寺二世で羽咋（はうさ）・永光寺開山の瑩山紹瑾（えいざんじょうきん）が鎌倉時代の元亨元年(1321)、門前の諸岳寺観音堂を禅宗に改めたことに始まります。二世の峨山紹碩（がさんじょうせき）の代に基礎が固まると、その弟子たちは全国各地に進出し、曹洞宗大本山として発展していきました。

今回の展覧会では、瑩山・峨山両禅師の遠慮を記念して、およそ50年ぶりに總持寺の至宝が里帰ります。祖院・永光寺の寺宝も併せて出品し、石川で育まれた總持寺の歴史と文化をご紹介します。



屈原漁夫問答図(部分)
中国・明時代
横浜市・大本山總持寺蔵



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/



ガン保険 チューリッヒ生命
「終身ガン治療保険プレミアム」

通院治療が増加している時代の、画期的なガン保険

今、ガン保険にご加入されている方も、
ご加入されていない方も今すぐチェック!

0037-6001-68177

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。恐れ入りますが携帯電話等でおかけください。
受付時間: 10時～19時(日曜定休) 広告有効期限: 2018年1月31日 募集16004-20160112
(募集代理店)株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング 〒160-0022東京都新宿区新宿5-17-18 ZURICH

既にガン保険にご加入されている方に 追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
- 保険期間・保険料払込期間:終身

35歳男性 月払保険料 1,500円

43歳女性 月払保険料 1,500円

ガン保険にご加入されていない方に 自由設計プランで、ガンの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
- 保険期間・保険料払込期間:終身

40歳男性 月払保険料 3,216円

※記載の保険料は2015年7月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。

夏季特別展

イメージの力

—国立民族学博物館コレクションにさぐる—



箱形祭壇(悪魔の仮面) 地域:リマ ペルー



神像つきの椅子「カワ・トゥギトゥ」
民族:イアトムル パパアニューギニア

- 会期 平成29年 7月22日(土)～9月3日(日) 会期中無休
- 会場 石川県立歴史博物館 特別展示室・企画展示室
- 主催 石川県立歴史博物館・国立民族学博物館・千里文化財団
- 共催 北國新聞社
- 後援 NHK金沢放送局・北陸放送・石川テレビ放送・テレビ金沢・北陸朝日放送・金沢ケーブルテレビネット・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななほ
- 企画 国立民族学博物館・国立新美術館・日本文化人類学会
- 開館時間 9:00～17:00(展示室入室は16:30まで)
- 観覧料 一般800(640)円、大学生640(510)円、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金 ※65歳以上は団体料金
〈特別展・常設展セット券〉 一般880円、大学生700円

人類のイメージ力を体感せよ!

「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐるー」と題する本展覧会は、国立民族学博物館創設40周年・日本文化人類学会50周年記念事業として2014年に東京・国立新美術館、ついで国立民族学博物館で開催されたのち、全国を巡回しているもので、日本海側では初の展観となります。

本展覧会のねらいは、国立新美術館と国立民族学博物館の共同の試みとして、国立民族学博物館（以下みんぱく）のコレクションの中から世界各地の造形を精選し、人類の生み出すイメージの創造と享受のあり方に普遍性があるか否かを観客とともに体験的に検証することにあります。

1. 美術館と博物館のコラボレーション企画

2007年に開館した国立新美術館は、近現代美術を中心にした展覧会を開催しています。一方、みんぱくは、世界各地の造形物や生活用具などを所蔵する世界最大級の民族学博物館です。今回の展覧会はまったく異なった2つの機関が共同で企画したものです。みんぱくのコレクションを美術館の空間で展示し(国立新美術館での企画展)、さらにその美術館の空間で成立した展示を博物館で再展示するという今回の試みは、さまざまな既成の区分を改めて問い直すものといえます。

2. イメージの源にせまる

人間が生み出した多様な造形に対して、新たな見方を提示する本展覧会。世界のさまざまな地域とさまざまな時代を射程に入れて、人間とイメージとのダイナミックな関係に迫ります。有史以前から人は、色とかたちを駆使してイメージを生み出し、そこから新たな力を得てきました。本展覧会は、そうしたイメージの力を壮大な規模で問いかけます。

3. 世界の見方を再発見する

みんぱくでは、世界各地から集められた標本資料コレクションを地域別に常設展示しています。そのコレクションをイメージの働きという視点から通文化的に展観しようという今回の展覧会の試みは、観覧者が世界の見方やものの見方を再発見する機会となります。

4. 能登の来訪神を世界に位置付ける

石川会場独自の試みとして能登に伝わる来訪神行事の仮面を世界の仮面とともに展示します。石川県のアマメハギ・面様年頭や秋田県のナマハゲなど日本各地に伝わる来訪神行事は、現在、ユネスコ無形文化遺産登録に向け提案中ですが、来訪神の仮面が持つ造形的な価値を世界



面様年頭の面 輪島前神社蔵

的な視野に立って見つめる機会となるでしょう。

展示の構成

プロローグー視線のありか

人間は、イメージを創造するとともに、自らが生み出したイメージから力を得て生きてきました。プロローグでは、世界各地から集められた仮面で壁一面を覆いつくします。私たちは、強烈な眼力をもった色とりどりの仮面に取り囲まれることにより、イメージに見られるという新鮮な感覚を覚えることになるでしょう。

【第1章】みえないもののイメージ

ひとをかたどる、神がみをかたどる

人間は、眼に見えないものにイメージを与え、それと関わることで、見えないものの力をコントロールしようとしてきました。神がみや精霊のイメージは、こうした人間の意思が込められた代表的な例です。この章ではまず、人のかたどりをともに、神がみをかたどろうとした試みの跡を、世界各地の造形にたどることにします。



トコベイ人形 地域：トビ島 パラオ

時間をかたどる

地域や民族、宗教に固有の物語も、神がみや精霊同様に、眼に見えない領域に属しています。人びとは、生活を営む上で大きな意味を担っていた物語を、視覚的なイメージに留めようと努めてきました。それによって、物語は後世に伝えられていったのです。アボリジニの樹皮画など時間や物語をイメージに定着させる試みを世界各地に探ります。

【第2章】イメージの力学

高みとつながる

イメージには、私たちの視線をある一定の方向へ導く

働きもあります。死者の霊を地上から他界へと送りだしたり、神がみが地上に降り立ったりする道筋としてのイメージは、さまざまな地域と文化に普遍的に確認することができます。世界各地で集められた墓標や木彫などが林立する空間は、はるか上方の世界と、今ここに立つ私たちとのつながりを喚起することでしょう。



ビーズ製人像 民族：ヨルバ ナイジェリア

光の力・色の力

光や色は、私たちの眼を引きつける強烈な力をもっています。たとえば鳥の羽やビーズを用いた装身具が放つ光や色は、聖なるものとのつながりの表現として、あるいは、力や富の象徴として用いられてきました。光や色が与える視覚的効果に人びとが見出そうとしてきたものを検証します。

【第3章】イメージとたわむれる

人間は、ある特定の目的のためにかたちを作り出すだけでなく、イメージを生み出し、それを享受することに喜びを感じてきました。クバの人びとの女性用前掛け布からイースターエッグまで、作り手がイメージを生み出すことに喜びや楽しみを見出していることがうかがえる世界各地の作例を取り上げます。

【第4章】イメージの翻訳

ハイブリッドな造形

人の移動や交流によって、かつて出会うことのなかったもの同士が交わり、新たなイメージが生みだされるということは、世界各地で確認されます。文化の交流の結果生み出されるハイブリッド(異種混合的)な造形に着眼し、外の世界のイメージを取り込むことで、新たな表現が生み出されていく様相を確認します。



棺桶(ライオン) 制作：バー・ジョー 地域：テシ ガーナ

消費されるイメージ

イメージは、通信や物流、生活様式の変化と深く関わっています。セネガルやベトナムでお土産として売られているアルミニウムの缶を利用した玩具は、世界中で商標が

知られた空き缶を用いて制作されています。イメージが、めまぐるしく動くグローバル社会の中で消費されつつ、新たな姿と機能を獲得していくさまに迫ります。



「いのちの輪だち」 制作：フィエル・ドス・サントス、クリストヴァオ・カニャヴァート(ケスター) 地域：マプト モザンビーク

エピローグ

ー見出されたイメージ

日常生活で実用のために生み出された器物。博物館ではその「資料」価値が明確に伝わるよう整然かつ論理的に並べるのが基本です。ここでは、このような博物館のルールにこだわらない展示を試みます。これにより資料がたやすく「作品(アート)」に変貌するのを感じてもらいます。それは、イメージが常に新たな意味づけに対して開かれていることを示すものです。

■ 関連行事

(1) 記念講演会

「イメージの力をさぐる ～国立民族学博物館コレクションから」

講師：吉田憲司氏(国立民族学博物館館長)

日時：7月23日(日) 13:30～15:00

会場：ワークショップルーム

定員：80名(先着順)

※聴講無料

(2) ワークショップ

「光放つ布 インド伝統のミラー刺繍を体験！」

ミラー刺繍とはガラスミラーに布を縫いとめる伝統的な刺繍技術です。ミラー刺繍を縫いつける作業をしながら、インドの文化や社会についても考えます。

日時：8月5日(土) 10:00～15:30

※昼食をご用意ください。

講師：上羽陽子氏(国立民族学博物館准教授)

会場：ワークショップルーム

対象：一般

定員：25名(要事前申込)

※申込者多数の場合は抽選

参加費：500円

申込期間：～7月24日(月) 必着

応募方法：

往復葉書にイベント名・

お名前(1通につき1名)・

住所・電話番号を明記し、

歴史博物館普及課まで



ミラー刺繍

学芸員
コラム

よみがえる縄文犬 ~人と犬の関係史~

当館の第1展示室に入ると、最初に縄文時代の犬が迎えてくれます。この縄文犬は、七尾市三引遺跡から出土した約7000年前の犬の骨にもとづいて復元しました。歴史博物館なのに犬の展示?と疑問に思う方もおられるかもしれませんが、犬は人と関係の深い動物なので、犬の歴史をひもとくと、人の歴史も見えてきます。

犬は、人がオオカミを飼いならした動物で、その起源は約3~2万年前にさかのぼり、最も古い家畜と言われています。日本では縄文時代に現われますが、大陸から人に連れられて渡ってきたと考えられています。三引遺跡の縄文犬の復元を監修していただいた茂原信生氏(京都大学名誉教授)の分析によると、この遺跡の犬は体高(肩までの高さ)が41cmで、現在の柴犬より少しだけ大きいことがわかりました。体の大きさは柴犬に似ていますが、縄文犬の骨は太く頑丈です。頭骨をみると、額から鼻にかけての段差が小さく、鼻筋がとおる顔に復元され、祖先のオオカミに似ています。こうした特徴は、他の遺跡で見つかる縄文犬の骨と一致しています。

縄文時代(約15000~2900年前)は、主に狩猟採集を生業としていた時代で、犬はシカやイノシシなどの狩猟の際に獲物を追い込むなどの役割を果たしていたと考えられています。三引遺跡では特にシカの骨がたくさん出土しているので、シカ猟が盛んだったようです。縄文時代の人びとは、狩りのパートナーとして犬を大切に飼っていたようで、遺跡から犬の墓が見つかることがあります。亡くなった犬をしので、丁寧に埋葬してあげたのでしょう。

縄文時代には、犬は猟犬として大切にされていました。弥生時代になると、人びとは犬を食べるようになりました。弥生時代以降の遺跡からは、刃物で肉を刻んだ解体痕を残す犬の骨が見つかるようになります。弥生時代に朝鮮半島から水田稲作が伝来し、米食とともに、犬を食べる食文化も伝わったと考えられています。また、弥生時代には、農耕が定着することによって食料を生産するという考え方が広がり、犬もブタと同じように食肉用の家畜とみなされるようになったようです。犬にとっては受難の歴史ですが、人と犬の関係は時代の移り変わりに応じて変化してきたのです。

(学芸主任 三浦俊明)



復元された三引遺跡の縄文犬

愛玩用のペットとして犬を飼うことが広がったのは、江戸時代になってからです。外国から洋犬などの外来種が輸入され、グレイハウンドや狎など、大小さまざまな犬種が飼われていました。「唐犬」や「南蛮犬」と呼ばれた外来犬は、特に大名たちに人気があり、長崎のオランダ商館などを通じて輸入された犬が大名の間で贈呈されたり、将軍へ献上されたりしていました。1634(寛永11)年、加賀藩主の前田光高も、三代将軍の徳川家光から南蛮犬を下賜されています。

最近でもロシア大統領に秋田犬が贈られたことが話題になりましたが、犬が外交の舞台に登場するのは古代にさかのぼります。平安時代の823(弘仁14)年、中国東北地方~ロシア沿海地方にあった渤海という国の使節が冬の日本海をこえて加賀に到着しました。この渤海使は、「契丹大狗」2匹と「獐子」2匹を連れてきました。契丹大狗は蒙古犬のような大陸産の大型犬、獐子はその子犬か別種の小型犬とみられます。この時の渤海使は平安京への入京を許されませんでした。犬たちは他の進物といっしょに都の天皇のもとへ届けられました。

古代の契丹大狗や近世の南蛮犬のように、海外の珍しい犬は権力者に重宝され、彼らのステータスシンボルになっていたことでしょう。渤海から船でやってきた犬たちには、加賀の地はどのように見えたのでしょうか。犬の目線で歴史を考えてみるのも楽しく、当館の縄文犬にぜひ会いに来ていただければと思います。

教育プログラム
Educational Program

当館では特別展に関連したワークショップを定期的に開催しています。先日開催された春季特別展「北前船と日本海海運」では、3つのワークショップを行いました。今回はその中から「北前船砂絵作り」と「北前船ペーパークラフト『琴平丸』を作ろう」の様子をご紹介します。

①北前船砂絵作り

まずは砂絵作りからご紹介します。作り方は単純で、台紙の紙をはがし、のりの付いた面に砂を撒いていくものです。砂絵作りは子どもから大人まで幅広い年代の方に参加いただき、皆さんそれぞれ思い思いの砂絵を作っていました。特に印象的だったのは帆の色で、実物のようにシンプルな作品は意外と少数派で、カラフルに仕上げたものが多かったのには驚きました。そのほか、空の部分にカモメや太陽を描いたり、グラデーションを施すなど、参加者の個性がよく表れるワークショップだったと思います。

また、砂絵作りでは待ち時間が発生することが多く、かなりお待たせしてしまっただけでもありました。今後の改善点としたいと思います。



「北前船砂絵作り」(制作のようす)

②北前船ペーパークラフト

続いてはゴールデンウィーク中に開催したペーパークラフトです。こちらは親子での参加がほとんどでした。砂絵と違い作業が多く、特に糊付けで苦労した子どもが多いようでした。自分でテキパキ作っていく子、保護者の助けを借りながら進める子、最後まで自分の力でやり遂げようとする子。進め方は人によってさまざまでしたが、丁寧に作る子が多かったのが印象的で、親子で協力もしながら最後は全員完成することができました。

今回のペーパークラフトの特徴として、作りながら北前船の構造を体感できる点があります。ペーパークラフトで新たに分かる部分は、帆柱や錨、舵など。どれも当時の航海を考えるうえで重要な部分ばかりです。参加者からは「この部品は?」「これはね〜」などといった、北前船の構造についての会話も聞かれました。形や大きさ、動かし方も、今の船とはかなり異なる北前船。ペーパークラフトを通して、当時の航海をイメージできたでしょうか?

今回は春季特別展のワークショップをご紹介しましたが、夏の特別展のワークショップもただ今準備中です。皆さん楽しんで頂ける工夫を考えていますのでご期待下さい。

(学芸員 野村 将之)



「北前船砂絵作り」(完成!)



北前船ペーパークラフト「琴平丸」を作ろう(2017.5.3)

■催し物案内 展示解説や各種講座などの情報を
Information お知らせします。

○学芸員によるワンポイント解説(全11回) ※要観覧料、申込不要
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

【時間】13:30~14:00 【場所】展示室

○れきはくゼミナール(全11回) ※受講無料、申込不要
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(7月、3月は月2回)

【時間】13:30~15:00 【場所】ワークショップルーム

○古文書講座(前期・後期各3回) ※受講無料、要申込
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。

【時間】13:30~15:00 【場所】ワークショップルーム

*前期分受講者のお申し込みは締め切りしました

7月	※7月の休館日 7/19(水)~7/21(金)
27日(木)	古文書講座(前期第2回) テーマ 武士の絵日記に親しむー「流聞軒其方狂歌絵日記」の世界2ー 講師 学芸主任 塩崎 久代
28日(金)	学芸員によるワンポイント解説 テーマ 白山信仰の仏神像ー一 柏野地内出土「地藏菩薩半跏像」を中心にー 講師 学芸主任 北 春千代
8月	※8月の休館日 なし
8/4(金)、8/5(土)、13日(日)	の3日間は開館延長(17:00~21:00)、夜間のみ常設展無料
19日(土)	れきはくゼミナール テーマ ウナギ蒲焼の地方史ーなぜ石川県は日本有数の消費地となったのかー 講師 学芸課長 大門 哲
24日(木)	古文書講座(前期第3回) テーマ 武士の絵日記に親しむー「流聞軒其方狂歌絵日記」の世界2ー 講師 学芸主任 塩崎 久代
25日(金)	学芸員によるワンポイント解説 テーマ 幕末の加賀藩 講師 学芸主任兼資料課長 濱岡 伸也
9月	※9月の休館日 9/4(月)・9/5(火)、9/13(水)~9/15(金)
9日(土)	れきはくゼミナール テーマ 絵馬にみる聖徳太子と親鸞の伝説 講師 学芸主任 戸潤 幹夫
22日(金)	学芸員によるワンポイント解説 テーマ 特殊神饌「菓子台」について 講師 学芸主任 大井 理恵